

三河アララギ

2025年 令和7年11月 霜月

しもつき

十 一 月 号

第 七 十 二 卷 第 十 一 号



ニューヨーク日記(229) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

MY DASHI

Blue Shoe Diaries



日本に着くと、まず出汁の匂いじゃない？ というか、日本人ってたぶん、だしの匂いがするんじゃないかと思う。体の中をだしが流れてるっていうか…。とにかく、あの香り、落ち着くんです。美味しい出汁は、結構お茶みたいにそのまま飲んじゃうのよね。日本料理の土台であり、フランス料理で言うところのブイヨンの存在かな。この間初めて麻布台ヒルズへ行ってみたらカスタムブレンドの出汁パックをその場で作ってもらえるお店があって早速作ってもらいました！ 茅乃舎のあご出汁が好きだから自然とその味に寄って行ってるつもりだったけどさすがにあそこまでは及ばず。それでもやっぱり「マイ出汁」作れて楽しかった！

When I land in Japan, I smell dashi. I think Japanese people generally smell like dashi. It runs through our veins. In other words, I love dashi so much that I often drink it straight. It's the soul of Japanese cooking, the way a good bouillon anchors French cuisine. So when I found a place at the brand-new Azabudai Hills where you can custom-blend your own dashi pack, of course, I said yes. Here's mine: ago, kat-suobushi, shiitake, and kombu. It's good... but honestly? I still prefer my trusty Kayanoya.

目次

第七十二卷第十一号(通卷八六三号)

表紙・コバノブラシノキ	(1)	稲吉 友江	(25)	木 風	(31)	
ニューヨーク日記(229)	Blue Shoe (2)	鈴木美耶子	(26)	折々の詩(二十一)	ふじのけんじ	(32)
歌集 わが冬葵	御津 磯夫 (4)	牧原 正枝	(26)	五感を澄ませば(41)	杉浦恵美子	(34)
歌集「草々」	今泉 米子 (5)	大武 智子	(27)	附録(四十二)	矢崎 直人	(36)
ははきくさⅢ	大須賀寿恵 (6)	現代学生百人一首	東洋大学	『粹』について	中屋 保之	(38)
三河アララギ歌集Ⅳ	夏目 勝弘 (7)	岩崎 雄斗	(28)	『酔いの徒然』(163)	丸山酔宵子	(40)
『歌集 八千代』	岡本八千代 (8)	松井 凜	(28)	「おやねはヤーネ／おれだよおれだ」	高橋 育郎	(42)
核融合	今泉 由利 (10)	小川慶太郎	(28)	絹の話(1)	今泉 雅勝	(44)
調理師さん	安藤 和代 (12)	江尻 あい	(28)	「江上浩二の独り言」	江上 浩二	(46)
曼珠沙華	山口千恵子 (14)	篠崎 双葉	(29)	初狩便り48	花野みふり	(48)
赤い電車	杉浦恵美子 (16)	今泉 佳彩	(29)	本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬		
思い巡らす	伊藤 忠男 (18)	高橋 蒼	(29)		本田 勇氣	(50)
弘法山回顧	白井 信昭 (20)	佐藤 菜穂	(29)		玄 翁	(52)
「秋の雨」	矢崎 直人 (22)	植村 公女	(30)	康鍼治療院	殿山 木風	(54)
『ことよせ』	いーはとぶ	木村 歩歩	(30)	臺上獨酌	Atiya Hussain	(56)
森 厚子 (24)	今泉 如雲 (30)	今泉 由利 (31)	「三河アララギ」について		今泉 由利 (58)	(60)
水野 絹子 (24)						
牧原 規恵 (25)						

歌集 わが冬葵

御 津 磯 夫

花を踏み花を分けつつ花をくぐり花を切り遊ぶ老いの日もある

風知草のみどりあふるる鉢を置くわが眼やすらふ庭石のうへ

ただ一夜泊りてゆきし穉子のあとにのこれるスペイン語一つ

學長の友はいひ來るあひともに持時間すくなし大切にせむ

忠順もむかし遠江を疑ひき曳馬野は引馬野にして三河の御津（みと）ぞ

委員會と名づけて彼等のよみあぐる數字のままに決められてゆく

東京の都心にありし三時間わが身波うつごとき夏の日

幼らの裸になりてはしやげるを九十人あまりも診てすがすがし

病棟のうへに高槻の青なびき唐變木たうへんぼくの花もみだるる

ただひとたび側かたはらに坐りしもはるかにてわれは哀しみ太秦うづまさおもふ

歌集「草々」

今 泉 米 子

なじまざる夜具に明けたり堅香子の花は窓よりとどくばかりに

大切りの葱浮かせたる秀衡椀車の音も聞えぬ晨を

山の土乾きて白し堅香子の花の群がりを朝明けて見つ

金雞を埋めて築きしこの山の土乾きつつ堅香子の咲く

夕べ來て晨は去りゆく金鷄山の東ねし堅香子の花を貰ひて

高館の標をたてて崖の下雪代水のみなぎりめぐる

堅香子のむらさきの花網棚に置きつつ酔はず歸り來にけり

梅雨ふりてしとどの庭に待宵の花ほのぼのとひらきはじめつ

年々におのづからなる待宵草はじめての花は大雨の中

土に近く亂れ伏したるより咲きはじむ待宵言ひつつわが窓閉ざす

はゝきくさⅢ

大須賀寿恵

庭隅のかぜくさ叢の枯れ枯れて五月の風にゆれ止まずをり

赤き朱きカンナの大葉は除草剤に明るき色の緋となりぬ

ところどころ色の抜けたる数珠玉の葉ずれの音す降る雨の中

三年三月通ひて癒えしといふを聞く肩の注射の滲みとほりつつ

キノホルムを飲まされてスモンのわが十年いま待たむよその自然治癒

医学よりなほ信じたし己が身にあるべき自然治癒の力を

自然治癒を待つばかりぞとわが云ひてすすめらるれば梅酒も作る

灸も鍼もマッサージさへもかへり見ずただひとるわれは自然治癒を信ずる

キノホルム飲みてスモンとなりたるになほ頼りゐる紫丸赤菓

生つばのしきりに出でてくる朝塩辛き桜の花漬けを噛む

三河アララギ歌集Ⅳ

夏目勝弘

海よりの風の抜けゆく待合室にたびたる煤竹を提げて立ちゐる

生垣をくぐり吹きくる西風に真白き紙の舞ひ上りゆく

庭の土に漁れるチャボの黒き羽根息する風に逆立ち光る

俯きて歩むは悲しみ持つならず帽子を飛ばす西風の中

上向けば常にごうごうと唸りゐる我に聞こゆる宇宙の響き

西側の窓をただ見て坐りをりガラス戸鳴らす風の過ぎたり

庭抜くる風にころがる音などに段ボール箱またアルミの空罐

暗闇の一つの方を見つめゐつ頬に空気の流れを感じず

家に沿ひ吹きくる風の強弱に波うつ十葉の花の群落

クモの糸に吊るされてゐる珊瑚樹の青き落葉のキリキリ廻る

『歌集 八千代』

蒲郡 岡本 八千代

石楠花の花なき季の室生寺を女人高野とわれは来たりつ

杉の落葉草履の裏にまつはりて白足袋汚しゆく奥の院

灌頂堂の正面暗き板の間に坐りて二而不二の疑問を思ふ

悉地院といへる御堂の前に立つわが髪みだし風花の吹く

朱やさしき五重の塔の見えるを見ず登りゆくここの石段

たちまちに粉雪舞ひつくる塔の裏の蕾いちめんの石楠の上

釈迦如来弥勒菩薩の像の厨子ならびて黒し何も飾らず

宝鐸を吊り繞らせる九輪の上うすくもりつつ父を思ひつ

寒の明くる夜なほ荒るる雨と風父がゐたらばなにをか話さむ

雨風のはげしきこの夜ゆつくりときのふの新聞また読みかへす

われの手の親指にいでたる魚の目を父死ぬる魚の目と人の言ひたり

迷信と思ひながらも親指の疣を父かとおもふときあり

父が生きてゐるときわれのねだりゐし手機織一台手に入りたり

六十年機織り暮したる春日井のぎんさんの機がわがものとなる

今夜よりわがものとなりし手機織りの糸車そろそろと回してみたり

核融合

東京 今泉 由利

太陽の多く持ちをる成分の水素と水素の核融合を

今からを50億年の命ありと太陽寿命を計算してみる

法被の子寝間着の子抱だっこつ子の子おまつり道中恵比寿坂

飛行機の小さき窓より覗く地球大海原よ無限の星よ

ブエノスアイレス空港より南米大陸、マイアミ空港、大西洋、北米大陸、羽田空港へ。

ほんのりと地球の丸まるみ感じつつ、私の心に丸まるごと地球を

新しき国にわけ入る心地して恵比寿の町を住いと定む

まろまろの地球のまろみ直々に、喜々と居る日々恵比寿の町に

身のまわりの一番大きなものとして丸みをおびた地球に住まう

太陽と私をつなぐ太陽光線の頼もしくありあたたかくあり

丸いという地球の上を行き来して、生きていること死にゆくということ

地球に居る、この日々のことより消ゆる日のこの頃思う、どうすれば良い

月光を受けた今日の私の影、今を生きゐる月影さやか

木曜日の夕刻は、恵比寿のグロッキアアトリエにて、わき目もふれず没入し

調理師さん

豊川 安藤 和代

花よりも尚美しく葉の光るホームの庭に朝を安らぐ

久に降る雨に喜ぶ吾れよりも草木々の葉は喜びの色

朝あさを一枚ガラスの一角に蟻より小さき蜘蛛が巣をはる

飛行機雲西へ伸びゆきどの部屋が大きく電話の呼んでいる朝

洗濯の脱水終る五分間いつしか雲は形変えゆく

各々に言葉かけつつ椀渡す調理師さんに心ほんわか

好物の献立も調理師さん手腕添えられ美味しさの増す

笑顔ある調理師さんの盛る飯は愛も盛られておなかいっぱい

オムライス美味しかったよ今日の昼遠くで鴉も騒いでいます

友は皆勉強中かお昼寝か静かすぎます秋の日の午後

この手から幸せホロホロこぼれた日今その手には小さき花咲く

風ぐ海も荒れ狂う海もこの人と誓いし夫も逝きて七年

恋の短歌^{うた}詠みたる日々ははるかなり皺深き手をじっと見つめる

夜景見つ消灯前の数分を友と語るは幸せのとき

街の灯の心に潤む秋の夜は遠住む友の声の聞きたし

曼珠沙華

豊川 山口千恵子

柔らかき蜥蜴の卵草の中枯れ草かけをく五粒の卵

この夏の贈り物のごとく倉庫の床に大き冬瓜五つ並べる

踏み切に自転車止めてしばらく待つ乗る人疎らの普通電車

季になれば赤く花咲く曼珠沙華暑さは未だ去りゆかぬ日々

畦草を刈られし跡の曼珠沙華ひとときだけの赤はなばなし

一人来て墓の周りの草をとる彼岸の入りとラジオに聞きて

わが墓のうしろの草をとりしあとに白花彼岸花植ゑむともくろむ

はなやかな造花の目立つ墓の供花枯れたるわが家の花とり替へる

庭に咲く千日紅と百日草供へて帰る彼岸入りの墓

昨日の雨にやはらぐ庭の土さはさは青きメヒシバ抜きゆく

敷石の間に一本日々草何処より来しか抜かずにをきぬ

かすかなる秋の気配のする朝部屋の窓々開け放つ

やうやくに暑さやはらぐ道をゆく蜻蛉すいすい稲田の一角

法師蟬の声きかざりとふと思ふやうやく秋になりゆく気配に

息ひそめ夏の暑さを妙へしごと黄花彼岸花のやうやくの蕾

赤い電車

蒲郡 杉浦恵美子

乗らぬからつべこ言へぬが赤くない名鉄電車が踏切通る

さりげなく景色に紛るる灰緑然りとてこれが名鉄電車

物心以来見馴れし名鉄の赤き電車は今は幻

超満員身動きとれぬ通学の赤き電車は記憶の彼方

灰緑の電車嘗てはどの街を往来せしか今は我が街

蒲郡往時は通る今は無し赤い電車やドクターイエロー

母の里訪ふには名鉄国鉄とさらに名鉄乗り継ぎにけり

母の里知多半島へは二時間の電車の旅を昔はしたのか

これほどの遠距離なれどもとせず叔父叔母屡々我が家を訪ひぬ

娯楽なき時代なればとて親戚間訪問し合ふは楽しみなりき

年一度会ふのみなれど従姉妹たち近所の子等より親しく遊べり

従姉妹たち年経るごとに遠ざかり何処に暮すか何しているか

踏切に電車通過を待つ間過去への旅をふとしたりけり

年経るは過去が蓄積することと気付けり踏切電車を待つ間

それはさて赤字路線の蒲郡線我が思ひより廃線の危機

思い巡らす

大阪 伊藤 忠男

空見上げ秋はまだかと問いかけるあすはまだなお夏日なるかな

何気なく見上げた空に流れ星瞬く間にて消えて去り行く

歳時記の役立つ季節彼岸なり暑さ寒さの境目なるや

友と行く丹生と水銀目指す旅期待と不安胸に渦巻く

高野への道は賑やか今の今行きかう人の様変わりする

丹生の里訪ね聴けども口閉ざす水銀今や無用なりけり

平城の都支えた丹生の民今はひっそり吉野川沿い

朱を送りにぎわう昔今は無く赤き鳥居の目立つのみなり

山を翔け山を巡りた丹生族の落ち着く先は鋤と鋤なり

空海の心仏の道を超え^{まこと}眞実探した帰結なりけり

プレートに押され横ずれ地の動き目には見えずもここにあるなり

目に見える中央構造線に立ち人の小ささ思い知らさる

松明を抱え階段駆け上がる燃える火柱神に届くや

境内にお寺があるを不思議がるこれぞ日本の日本なるのに

闘いに項羽敗れて四面楚歌流れた血海花となりけり

弘法山回顧

豊川 白井 信昭

回覧の敬老会名簿番付に母一〇四歳我七十五歳

軒先のフェンス外側いつしかに太き胡瓜おおきゅうり一つ取り忘れあり

当てがいのようやく出来て台付のコンクリ柱一本目たてり

敬老会今日の日曜日記念品紙袋なか中焼海苔のり三箱

大塚の星越海岸久々に生まれ変わりしレストラン入る

ここよりはR23道変えて坂上がりゆく弘法山ゆく

法輪と幼子を抱き南みなみの海うみの彼方かなたに向き立ちそびゆ

渥美湾一望の下に見渡せる風光明媚の景勝地かな

遠足に上り来し道頂にコンクリの坂に想いは及ぶ

向かつ山ロープウェイ架けし跡大島小島竹島見ゆる

孫待つとわが恋いおればわが部屋の簾動かし秋の風吹く
すだれ

秋の風カーテンゆらし聞こえる息子孫の声やがて玄関に

いつものごみ出し場までの道に咲くイヌサフラン・タマスダレ・山萩・葛
くず

夏残る九月も下旬彼岸なり川土手に未だ彼岸花見ず

み社の大楠一つ枝打の響く音いざ社務所解体

秋の雨

埼玉 矢崎 直人

キッチンカーの閉店作業公園の家族の去りて残る蝉鳴く

『夢中飛行』碧梧桐のイベントに行つて会いたるファンの面々

秋雨の春日部中央公民館『瑠璃の浄土』高橋賢治氏

寄り添えるむくろに金の腕輪かな瑠璃の浄土の愛とユーモア

雨月かなまた無月かな月を恋天気予報が気になるこの頃

十六夜の月は雲間にうつすらと月の形を垣間見せたり

つけ麺『狼煙』盛沢山のトッピングこしの太麺絶えぬ行列

『澤村』の武蔵野うどんのそのコシの驚くほどに強くありけり

岩槻に生鮮市場『TOP』でき物価高には懐助かる

みつ芋のはるかスーパーバホーム店内にできアイスを食べる

秋の雨三十分並んで食べる『阿蘭陀軒』二種のチャーシュー楽しめる味

白線を引く石灰の跳ね鵪鶉は白き腹を見せて跳ねる

秋澄めり駐車は45℃に切り戻してバックしてから切りぬ

ハンドルを右に左に切り立体駐車場から十月の空

階段を上り下りする1歳の幼のおなご成長はやし

『いっよよせ』

西浦公民館 いーはとぶ

盆過ぎの眠れぬ夜に浮かびくる記憶の彼方楽しき事ども

森 厚子

今宵また眠れぬ夜となるかもか思ひ起こさむ嬉しき事ども

五冊ほど市の図書館に本借りなむこの夏覚えし新たな愉しみ

夏休みに孫と一緒に図書館へ行きました。以来、一週おきの図書館通いと読書は、私の楽しみとなりました。

津の港セントレアへとつながれり我が町よりも近いかもしれぬ

水野 絹子

夫と二人鳥羽の島々巡りゆく神島からの伊良湖は目の先

老いし今やうやう訪ねる戸隠にあの日の君の面差しふはり

主人と初めて旅行したのが戸隠。互いに老けたけれど、時折あの日の面差しが横切るように感じました。

連日の熱射に耐へてわが畑の先の先までスイカごろごろ

牧原 規惠

天候の異常な日々になが畑の例年になくスイカが育つ

借りし畑この夏限りに返すとすほつとしつつも寂しき思ひ

体力の衰えを感じ畑仕事を減らしてゆく事としました。無理をしないで楽しみ程度に続けてゆこうと思います。

父母に戦争の事聞かぬまま今知りたきかな二人の青春

稲吉 友江

二つある五分違ひの掛時計今日はどちらの時間で暮らさう

ガラス戸に毎夏の夜現れし守宮の「やっちゃん」今年は来ぬのか

思うのは父母はどんな青春を送っていただろうか。今となっては聞けないが。全世界が平和であります様に。

息子らは成田に着きしか今頃は見上ぐる先の真青の夏空

鈴木美耶子

葉月のけふ堤防アートの魚たちカンカン照りにもめげることなく

真夏日のカンカン照りの石畳小さき日傘の陰を落として

夏休みの暑い中、親子短歌教室に参加し、小学生の皆さんと短歌を作り、吟行会にも参加。その折の吟行三首です。

苦情通知二ヶ所もくるか盆前に写真と農林水産課

牧原正枝

あの時は道は途中土地改良この土手下の行けぬ畑よ

この猛暑トンボは季を間違へぬ水辺は涸れて草も枯れさう

五月からの猛暑に干ばつに強い草木は茂り対応が追いつけない夏でした。後始末は今からが本番です。

弥陀堂の簞の上がる金蓮寺秋の彼岸の内陣明し

大 武 智 子

わが灯すゆふべの蠟の光受け磨き終へたる仏具耀く

宵宮へ向かふ祭りの山車が見ゆ吊るす提灯小雨に濡れて

彼岸の中日に吉良町の金蓮寺に行く機会に恵まれた。国宝の弥陀堂の簞戸が上げられ、内陣の阿弥陀如来像の彩色に光が当たっていた。

現代学生百人一首

東洋大学

武道場かけ声響く頭脳戦一本取るぞ右足を出す

千葉市立轟町中学校2年 岩崎 雄斗

電車内席を譲るが断られ下車駅同じ長いふみきり

千葉明德中学校3年 松井 凜

地区大会敗れた夜のカレーライス甘口なのに目の奥ピリリ

稲城市立稲城第三中学校2年 小川 慶太郎

休み時間一人群れずに本を読む君の姿に目を奪われた

鷗友学園女子中学校2年 江尻 あい

二学期の始めの頃に現れるシャワーヘッドのような向日葵

学習院女子中等科2年 篠崎 双葉

緊張し勝手にかかるビブラートお願い声帯落ちついていこ

慶應義塾中等部3年 今泉 佳彩

消されゆく運命にあると知りながら往復はがきに書いた「行」の字

慶應義塾中等部3年 高橋 蒼

ビニールの仕切りに波打つ面会に祖母の手のシワ幾重にも増え

国士舘高等学校1年 佐藤 菜穂

『俳句』

行き過ぎて戻りし人や赤い羽根
カーナビにまかせてひとり月天心
新米を供え一礼外出す

植村公女

葉焼けして残暑にもみじ散り始め
鶏頭の群れ咲く暮れの紅さかな
寝そびれて朝刊待てば白い月
来世まで続く夜道か芒原
秋夕焼け螺髪も伸びて五劫思惟

木村歩歩

蔵王には白雲や無花果入荷
新米や昨日糲摺りせしを炊く
櫓田や後三年駅醍醐駅

今泉如雲

家族連れ公園を去り残る蝉

矢崎直人

碧梧桐を歩ひてみたき秋の空

石灰をこぼして跳ねん白鵲鴿

秋の雨ひととき並び『阿蘭陀軒』

階段を上り下りする一歳天高し

はじまりと終りとのまん中に居るのかな

今泉由利

身体にズドンとひびき花火かな

黒雲が躍動をする夕立

大木闇お地藏様は座禪中？

自らの命たずさえ秋の日を

自らの命のことよ秋うらら

それぞれに影をもちをり秋の日の

138億才の宇宙の中に私も居るよ

地球なる80億人口にそっと加へる私を

飛行機に乗り500年の距離を言う

十六夜がうすぎぬの中輝けり
月を見て宇宙の不思議に吾は居る
うす雲のかかりて月の容よさ
無情にも月はうごいて留まらず
二代目は月食の夜半に逝きにけり
秋雨の静かに詠う別れかな

木風

菜っ葉飯作ってみれば母の味
満月の欠けゆくを見ゆ虫の声

郷泉

雲うつる池の睡蓮あでやかに

順子

生垣や色とりどりのサツキかな
雁の二羽水面に浮かぶ夜明けかな
浮雲やふわふわ空を渡りけり

吾山

朝早く花びら開くハスの花

夏来たる隠岐の旅路を思いだす

仏壇にお経となえて始まる日

年老いて山河恋しや故郷へと

敷石の下アリの巣孫見つけ

女工達飛驒を越えてや里帰り

紀風

折々の詩(二十二)

ふじのけんじ

晩秋

木は祈りに応える

四季折々の姿を見せて

今は 葉の色を一気に変え

枝のみになっていく

今はなぜか落ち着くのだ

フォルトゥーニ(※)の老人の裸絵

年輪を重ね 皺を重ね

いびつになった 体

人生の夕暮れの 美しさを

受け入れると

やがてわれわれは去っていく
限られた時間を 大きなものにゆだねていく
その祈りが 超越へのあこがれ

※フォルトウーニ Mariano Fortuny (1838-1874) スペインの画家 オリエンタリズムを主題としたロマン主義的絵
画、歴史的風俗画、スペインの植民地主義時代の戦争画などを描いた。

五感を澄ませば (41)

杉浦恵美子

ご飯とコメ

最近、中華料理店で会食したときのこと。

接客係の若い女性

「この料理は、よろしければ少しコメをお持ちしますの
で、かけて召し上がることもできます」

友人が聞きとがめました。

「コメ? どうやって食べるの?」

接客係は困ってもじもじ。友人はますます言い募ります。
そこで助け舟を出しました。

「最近の若い人はご飯のことをコメって言うのよ」

接客係にとってはとんだ災難、表情がこわばったまま
去って行きました。

そういえば、たしかに最近「ご飯をコメ」と言う場面
によく出くわします。聞きとがめるほどではないものの、
何となく違和感がありました。

そこで早速ネットで調べてみると

「なぜ若者は『ご飯』を『コメ』と呼ぶの? 世代間で違う、当
たり前」の背景

『昨日の夜、パスタだったから、今日は絶対コメがた
べたいんだよね』テレビCMからは『コメが止まらん!』
最近、特に若い世代との会話やSNSで、こんな風に
『ご飯』を『コメ』と表現するのを耳にしたことは多く
ありませんか?

長年『炊いたお米=ご飯』と呼んできた世代にとって
は、少し不思議で、時には違和感を覚えるこの言葉遣い。
しかし、これを単なる『若者言葉』や『言葉の乱れ』で
片付けてしまうのは、少し早いかも知れません。

実はこの表現の裏には、現代日本の食生活の変化や、
『ご飯』という言葉が持つ特有の事情が隠されています。

近年『コメを食べる』という言い方は、特に若い世代
で着実に普及しています。2018〜2019年に東京
都内で行われた調査では衝撃的なデータが報告されてい
ます。なんと食べる意味で『コメを食べる』と言う人は
全体の約4割に上り、20代に限定するとその割合は約6
割に達しました。20代男性では7割近くが『コメを食べ
る』と回答しています。

このことから、『コメを食べる』は平成後期頃から若
者言葉として広まり始め、今や一部の流行り言葉ではな
く、一定数の人々が日常的に用いる新しい言い回しとし

て定着しつつあることがわかります。

では、なぜ古くからある『ご飯を食べる』という表現ではなくあえて『コメを食べる』が選ばれるようになったのでしょうか。その最大の理由は、『ご飯』という言葉が持つ意味の広さにあります。

伝統的な日本語の感覚では、『米』は炊く前の生の米粒を指す言葉でした。そして、炊き上がった食べられる状態になったものを『ご飯』と呼び、区別するのが一般的でした。

そのため年配の話者ほど、『コメを食べる』と聞くと、まるで生の米をボリボリとかみ砕いて食べているような奇妙な光景を思い浮かべ、強い違和感を覚えると証言しています。

しかし、現代において『ご飯を食べる』という言葉には『炊いた米を食べる』という意味と『食事をとる(例・朝ご飯・夕ご飯・今度ご飯行こうよ)』という2つの意味が存在し、文脈によっては曖昧さが生じてしまうのです。

現代の日本では主食が多様化し、パン、パスタ、ラーメンなど、お米以外の選択肢が当たり前になりました。だからこそ『他の選択肢ではなく日本のお米が食べたい!』という気持ちを明確に伝えたい場面が増えたので

す。

この、従来の『ご飯』では表現しきれなかったニュアンスを的確に示せる点において、『コメを食べる』は非常に合理的な表現と言えるのです。

合理的な理由があるとはわかっていても、なお拭えない違和感。その背景には、長年培われてきた言葉の感覚や規範意識があります。

しかし、実際にその言葉が使われている以上、そこには何らかの文化的背景や利便性があるという視点で眺めてみると、言葉の奥深さが見えてきます。

言葉は、時代を映す鏡です。世代間の違いを面白がりながら、今まさに変化している日本語の一側面として『コメを食べる』という表現を捉えてみてはいかがでしょう。か。』 『ひろたか2025・8・19』

思わぬことから、身近なところでこんな変化があったことを知りました。

スマホの操作ひとつにもあたふたしているのに、もう「今どきの若者なんて」などと言っていられない世の中になってしまったのでしょうか。

コメどころか麦入り飯が日常の幼き頃は麦厭ひけり

附 録（四十二）

矢 崎 直 人

家族連れ公園を去り残る蟬

東北自動車道の浦和インター近くにある大崎公園に行ってきました。子ども動物園、芝生広場、遊具、ザリガニ釣りが出来る池、夏は水遊びが出来るジャブジャブ池などがあります。閉園近くの夕方に行ったので、キッチンカーが閉店の準備に入っていました。芝生に張ったテントを片付けて帰る支度をしている人がいます。秋の夕日が公園の木々を照らしています。風に秋らしさを感じます。人がいなくなっていく公園をひぐらしの声が包み込んでいきます。

キッチンカーの閉店作業公園の家族の去りて残る蟬鳴く

碧梧桐を歩ひてみたき秋の空

『本と喫茶 夢中飛行』で9月27日(土)に開催された豆本句集作りのワークショップ。残念ながら定員オーバーでした。『碧梧桐探訪舎さいたま支部』の棚主の方もお手伝いに来られていました。河東碧梧桐の俳句の本が沢山あって、他にもポストカードや「日めぐり三千里」というグッズを作って販売されていたり。碧梧桐を想う一日でした。

『夢中飛行』碧梧桐のイベントに行つて会いたるファンの面々

秋の雨ひととき並び『阿蘭陀軒』

東岩槻駅に近い長岡生姜醤油ラーメン『阿蘭陀軒』に行きました。秋の雨の中三十分並びました。しょうがの香りがします。チャーシューは注文してからカットされるところ。様々な部位がつかわれているので、違いを楽しめました。トッピングのほうれん草も美味しかったです。醤油のスープとちぢれ麺がよく絡んでいました。

秋の雨三十分並んで食べる『阿蘭陀軒』二種のチャーシュー楽しめる味

『「粹^{いき}」について』

中 屋 保 之

大相撲ロンドン場所が成功裡に終わった様である。現地観客の観戦マナーを「粹^{いき}」と評価しているのが目にとまった。動画などを見ると、確かに、横綱の土俵入りや取組後の弓取式での掛け声、立ち合い前の静寂と、まさに「粹」だと感じ入った。昨今、やたら大声で金切声を発したり、指笛や立ち合い前の呼吸合わせを邪魔する日本人観客の目に余る「無粹」ぶりには呆れるばかりである。

我が国が誇る伝統芸能のひとつ、歌舞伎では「掛け声」が舞台を盛り上げる重要な役割を持つているそうである。最員の役者が舞台上で「見得を切る」瞬間、屋号の「成田屋」音羽屋、或いは「十三代目」などの代数を、舞台から一番離れた向こう側つまり「大向こう」から絶妙なタイミングで声を掛ける。これが、舞台を盛り上げる効果を生み、客席と舞台が一体化するといわれる。まさに「粹」であろう。

NHKドラマ「べらぼう〜蔦重栄華乃夢噺」を愉しみにしている。東京育ちの私には、使われている「江戸弁」が何とも心地よく「粹^{いき}」に聴こえる。と言つて、浪速言葉が嫌いという訳では決していない。私が勤めていた会社では、関西弁が幅を利かせていた。株価など、値段を問うのに東京弁で「いくら?」というより「なんぼや!」と言った方が遥かに臨場感が感じられる。

「粋^{いき}」とは？問われても良く分からない。が、「粋^{いき}」に振舞いたい、とは思ふ。東京っ子の見得か。代表格の夏目漱石が、「I love you」という英語が日本に入ってきた時、「月が綺麗ですね」と訳したのが「粋」だとする説がある。また、江戸時代後期に江戸深川の芸者について語ったのが始まりで、身なりや振る舞いが洗練されていて、色気とさっぱりとした心持ちが同居しているような芸者のさまを当時の人たちは「粋だね」と言ったとか。

TVプロデューサーの松本修氏は、江戸の「粋^{いき}」と大阪（上方）の「粋^{いき}」は違うという。江戸の「粋^{いき}」は本人のしぐさや行動を周りの人が「いきだねえ」と誉めるが、相手を自然に喜ばす行動で、後から「すいやなあ」と思い出させるのが大阪の「粋^{いき}」だと言っている。

「粋」という漢字の成り立ちは、元々は中国において米を洗い、碎いた粉を指す言葉として用いられたとされ、日本に伝わると、その意味は「洗練されたり、選り抜かれたりすること」を表すようになり、次第に「洗練された趣のある」という意味で使われるようになったそうである。江戸時代には、ここからさらに転じて、流行を先取りする都会的な意味合いも持つようになり、「粋な人」とは、洗練されたファッションや振る舞いをする人を指す言葉として定着したとある。齢を経るにしたがつて、身辺に無頓着になりがちな今日この頃、英国紳士に負けぬよう「粋」を心がけようと思う。

『酔いの徒然』（二六三）

丸山 酔宵子

『傘寿の日の徒然』

九月七日、いよいよと言うか、えーつつ そんな歳になるのか……。昭和の戦後生まれも、生まれて八十年、つまり傘寿を迎えたのである。八十年という歳月は、長いようで、振り返ればあつという間だった。

天気晴朗にして、天高く秋空が広がっている誕生日の昼下がり。庭に出て、ワインセラーからとっておきのシャンパン ドン・ペリニオンを取り出し、零れるのを覚悟で、思いつきり栓を抜いたのである。芳醇な泡がグラスに踊り、澄み切った青空に一段と映え、仄かな酸味と蜜の香りが鼻腔をくすぐる。

明治期には傘寿まで長生きする人は珍しかったからであるう、宮中では八十歳の節目に、功績のあった元勳や功労者に傘寿のお祝いとして鳩杖を送ったのだそうだ。鳩杖（はとづえ、きゅうじょう、はとのつえ）は、頭部

の握りに鳩の飾りがつけられた杖である。鳩は物を_レ啄（ついば）む_レ時に、_レ咽（むせ）ない_レとされることにあやかっ、頭部に鳩の飾りが付けられたとのことだ。確かに歳を取るとちよつとしたことで、良く_レ咽（むせ）る_レが、誤嚥性窒息にも繋がるのであろうか……。

心地よいシャンパンの酔い心地でうとうとして目覚めてみれば、夜空の真ん中に見事な満月が輝いている。今日は中秋の名月である。アメリカでは「コーンムーン」と呼ばれ、アメリカ先住民の暦に由来するこの名は、_レとうもろこし_レの収穫期を象徴するという。

更に今夜は三年ぶりの皆既月食が重なり、月は赤銅色に染まってくる。月が欠け始めたのは日付が変わった八日未明。グラスを傾けながら、静かにその変化を見守れば、月が地球の影にすつぽりと入り、赤く染まってくる。

その日、もう一つのニュースが世間を騒がせていた。しぶとくその座に固執していた石破首相がやっと退陣を表明したのだ。元々レームダックであり、何事もなさに1年を無駄にさせた本人で、政権最後になっても潔

さがなく、最後の最後まで、貴重な国費を使って国連に行ったり、韓国に行ったり、税金の無駄使いも甚だしい。

一方、スポーツ界では、アメリカ大リーグ・ドジャースの山本由伸投手がノーヒットノーランを目前で逃した。九回二死まで完璧な投球を続けていたが、最後の打者にヒットを許した。惜しくも記録達成はならなかったが、恵まれてはいない体で、鍛えられたバネのあるしなやかな投球スタイルは、彼の伝説の投手沢村栄二を彷彿とさせてくれる。人生もまた、完璧を目指しても、最後に何かが欠けることが度々ある。それでも、その過程こそが美しいのだ。

遠い昔の少年の頃、親戚や知人の還暦を過ぎた老人たちは、腰も曲がり、杖を突き、ヨボヨボの姿の老人になるのだろうと想像していたものである。しかし今、将に傘寿になった己を見て、白髪にはなっているが、足腰もしっかりしているし、色艶も良い。銀座の飲み屋の女の子なども、「・・・うつそ・・・見えな～いイ。六十歳ぐらいと思ってたわア・・・」などと、お世辞とは言え、一人ほくそ笑んでいるのである。

スポーツジム及び整形外科で習った体操を我流にアレンジし、毎朝、例え二日酔いでも、庭に出て太陽の日を浴びながら続けている。因みに、ゴルフも誘われれば必ず参加することになっているが、練習は一切せず。先週、ぶっつけ本番、中学高校野球部同窓ゴルフの葉山カントリークラブでのコンペで、410ヤードのミドルホールで、打ち下ろしとは言え、2オン1パットのバーディーである。

皆既月食の赤銅色の月が再び白く輝き始め、満月は再び空高く昇ってきた。さあ、今日は、将に卒寿に向かつての第一日目である。

天高しシャンパン掲げて嗚呼傘寿

酔宵子

おやねはヤーネ（「金太郎」の替え歌）

高橋育郎

1 はしごをかついだ へんなひと

ふるいおうちを さがしているよ

あつちでキヨロキヨロ こつちでキヨロキヨロ

2 こんにちは おじゃまを いただきます

あなたのおうちは いたんでいます

けんさを しましょ けんさは ただよ

3 それでは おやねに あがります

かわらを すこし こわしているよ

ガタガタ ゴソゴソ ガタガタ ごつごつ

4 だんなさん おくさん たいへんだ

おやねが いたんで あまもりしそう

おやねは ヤーネ なおしましう はやく

5 ついでに ゆかした みてみましよう

おねがいしますよ リフォームやさん

しめたぞ ゴソゴソ ガタガタ ガッタンコ

6 だんなさん おくさん たいへんだ

ゆかした ガタガタ いたんでいますよ

いまのうち はやく なおしましう はやく

7 しらぬがほとけの おとしより

これであんしん もうだいじようぶ

そこえじしんだ アラマア つぶれたよ

おれだよ おれだ (「蝶々」の替え歌)

高橋 育郎

1 おれだよ おれだ かあちゃん おれだ

くるまをぶつけて こまっているよ

はやくべんしょう しないとやばい

かあちゃん たのむよ ふりこみ たのむ

2 わかった わかった まつてろ むすこ

かあちゃん いそいで ぎんこうへいくよ

あんしんしてろ げんきをだせよ

しめてぞ やったぞ せいこうしたぞ

3 むうすこよ むすこ ふりこみすんだ

どうした かあちゃん そんなこと おれは

しらんよ おれは げんきでいるよ

しまった やられた だまされちゃった

4 こまった こんなとき どうすりやいいの

そんなとき すぐにも でんわをしてね

しょうしせいかつ センターへ

かいけつするよう ちからになるよ

絹の話(1)

「アトリエテレビ」今泉雅勝

今日の地球上には10万種類とも言われる絹を作る生物が棲息しています。今日の一般の絹はその一種に過ぎません、戸外で見かける蓑虫の繭や蜘蛛の糸、蜂の巣も海で岩に着いている接着部(貝絹)もみな絹なのです、

今回はお正月ですので、金色の糸が出来るムガ蚕の話から始めましょう。

この絹は天然で黄金色に輝く、世界でも珍しい野生の絹で、和服にすると八百万円もする物が有りますので、垂涎の一枚とも言われます。(私共ではさほど高価では有りません)

原産地は高温多湿なインドのアッサムの一部で、ほんの少量しか採れない薄茶色で、絹層の柔らかい繭です。昨秋、35年のムガ蚕との取組みの中で最も品良く金色に輝いたシヨールが完成しました。世間では黄繭やインド

ネシアのクリキュラ蚕繭(金色繭、糸は黄茶色)で作られた物もゴールデンシルクとして売られていますが実は黄色やカラシ色です。

この絹は地球上のどんな繊維より紫外線を吸収、反射し、雑菌の繁殖を防ぐ抗菌性、吸臭性に優れ、保・放温性、保・放湿性、緩衝性(物が当たってもけがをしにくい)等も顕著です。

絹は人の体に一番親和性のある繊維ですので、健康に良いばかりか、繭を作る環境は空気も水も美味しくする広葉樹林です。農薬も大敵ですので、絹を着る事は環境保全に協力している事になります。

絹と言えば洗濯などお手入れがむずかしいと思われる様ですが、水洗いをおすすめします(25℃〜30℃)。洗剤は中性洗剤(頭を洗うシャンプーなどよい)。洗濯機は絹用に出ていないので、手で押し洗いして下さい(もみ洗は枝毛が起き易い)。水が垂れる位の絞り(強く絞ると乾いた後も絞りじわが残る事があり、プレスして

もとれなくなる場合が有ります。一般の白い絹は日陰干し、ムガ蚕は紫外線に強いので直射日光でもかまいません。プレスはスチームアイロンを直当てで結構です、アイロンを浮かせてかけないで下さい、小じわが発生します。ドライアイロンは避けてください。

保管は風通の良い所が最適ですが、虫は絹を食べますがあまり好みません。10メートル以上の高い家はほぼ大丈夫です。特に野蚕絹はタンニンを含んだ物が多いので虫は嫌います。

繭は動けぬ蛹を羽化する迄前述の機能性を駆使して大切に守る装置です、人は五千年も前から上手に利用して来ました。虫に学ぶ事が多いです。

「江上浩二の独り言」 95

江上浩二

あたらしい河童さまが、

最近新しい河童さまがいるらしいと都内の近郊地でひそひそ話程度に受け容れられそうであるという。

我々の認識でも河童様の噂でも見た会ったという話はない。

勿論その噂の新しい河童さまの姿を拝んだという方はいないらしい。

私もはっきりと見たことはないのだが、背後からや通りすがりの方が人の形をしているので、風を切るというか風圧的に感じて、さっと振り返って見ても勿論誰もないという。

芥川龍之介は河童という作品の中で河童のスケッチを残している。

その中で細い筆先で笹笹つと走らせた絵がこんなにも美しく妖恋的に筆が運ばれ女性的なのである。

太宰治には河童はいないが登場はする河童に加え瀬祭も好んだ正岡子規漱石も河童をおよぎが上手いと称え高浜虚子はうたわず中島敦のかっぱは河馬でなければならぬ凄さが

私はその新河童をくおか河童と呼びたい。

次の字のごとく、従来の川、大きな池、湖に居るであろう河童と対比させて、おかもしくは陸の字を与えたい。

陸稲・おかぼのおかである。

丘がっぱ

陸がっぱ

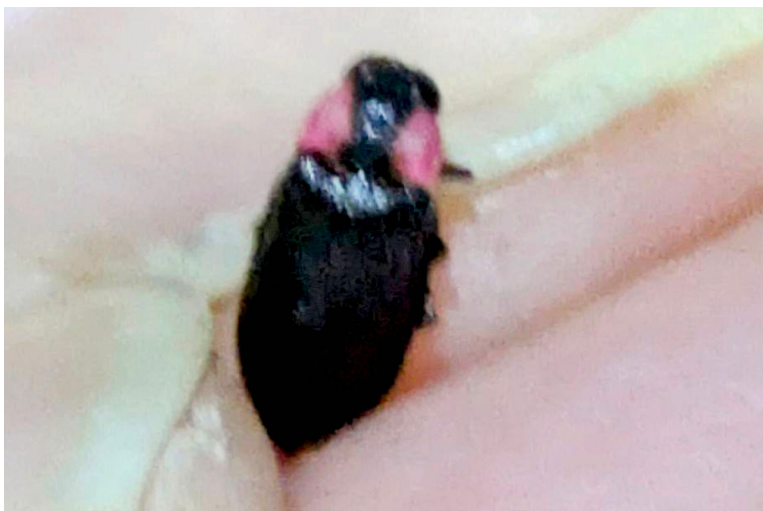
なぜ、おか なのかについてはゆくゆく私なりの理由を着けさせて頂きたいと思います。

おか河童はおそらく「右利き」だろう。

私が左利き（人の約10%が左利き）で、細かな例で申し訳ないが、右利きの方が右手で、急須でお茶を注ぐようにする際に零れぬ様少し上手い工夫がされていて、後で類似の例を複数あげる、要は日本的文化に固執しているようである。

やはり見えぬのだが、左利きの輩・男性の方におか河童が大事にならないいたずら・ちよっかいを出すそつだ。

続く



初狩便り
(48)



花野みぷり



はたる再生プロジェクト その6（ヘイケボタル）

日本に生息するホタルは約五十種あると言われる、清流を住处とするゲンジボタルと、田んぼなど流れのない場所に生息するヘイケボタル、山に住むヒメボタルがよく知られている。六月になると各地からホタル便りが届くが、ほとんどは、ゲンジボタルである。農薬の普及とともに姿を消したヘイケボタルを鑑賞する所は希少になっている。

初狩でゲンジボタルの情報はいくつかあるが、ヘイケボタルの情報はなく、インターネットで富士山麓の忍野村の中学校近くにいるという情報をキャッチ。中学校を訪ね先生にお聞きすると、昔はたくさんいたが今は見ない。忍野浅間神社の裏手に出現情報があるという。さっそく調査に行き、小さな沢を確認し、いったん帰る。夜を待ち、精鋭三人で歩いていくと小さな光を見つけた。ゲンジボタルとは明らかに光も光り方も違う。メス二匹とオス七匹を捕獲し、飼育箱で交尾させ、室温二十四度で育てること二か月。ある朝、初齢幼虫へと育ったヘイケボタルを発見、感動した。そっと棚田の一番下にあるビオトープに放流した。どうか無事に育ち、来年の六月、輝いて欲しい。

（写真 菅野昌英 尾辻雅昭 河野宏之）

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田のひとり言
<https://hondachiro.exblog.jp/>

2025年9月24日

ありがとうございます

本田カイロプラクティック の隣接する敷地の工事が

22日月曜日から始まりました

9月は周辺工事

10月～2月は家の建築工事が始まるそうです

しばらくは

患者さんに御迷惑がかかると思います

申し訳ありません

と最近 謝罪することが多い本田です

先日の急遽の病欠の際には

本当に御迷惑をおかけしました

そして

休みの間 電話に出るのも大変だろうと

お手紙を沢山いただきました

ありがとうございます

他にも お見舞い品を送ってくださったり

快気祝いを下さったりと

この場をかりて

深くお礼申し上げます

心と涙腺うたれつばなしです笑

これからも

日々精進して 前へ前へ進んで行きたいと思えます

本当にありがとうございます

今日も笑いながら楽しんで行きましょう

2025年9月26日

寒暖差アレルギー

秋の気配を感じつつ

日中は気温が上がるようです

大きく寒暖差が出ますと

咳

鼻水

倦怠感

排便の問題

などが出やすくなります

いわゆる 寒暖差アレルギー です

もちろん

ブタクサなど 秋の植物からくる

花粉アレルギーなどもあります

乳酸菌 と ビフィズス菌 を

毎日 食後に摂取し腸内環境を整えましょう

詳しくは

本田のひとり言 の

3S+ゆたぼん+ヨーグルト+八分+湯舟 のカテ
ゴリー

から読んでみて下さい

今日も笑いながら楽しんで行きましょう

康鍼治療院 (www.yasuhari.com)

玄 翁

「日中の眠気」

陽気は動^{うご}を主り

動いて陽気を めぐらせて

目が冴え 頭を働かせる

朝日を浴びて 目が覚めて

起きて動いて 陽気が上がれば

日中 元気に活動す

陰気は静^{しず}を主り

休んでゆつくり 気を降ろし

目を閉じ 眠りに誘^{いざな}わん

夕方夜には落ち着いて

目や耳、頭を休めれば

自然と夜には眠くなる

日中眠い^いにや 3つの訳ありて

一つは夜更かし 睡眠が

少なきや 陽気は消耗し

陰気は眠気を強くする

二つは甘味と冷たい物

過食をしたら 脾が弱り

胃腸は動かず・停滞、浮腫み

まぶたは重くて眠くなる

三つは 日々の生活で

坐りっぱなしで仕事して

動かず運動不足なら

陽気が巡らず眠くなる

日中眠気に襲われりや

頭の働き 弱くなり

身体生理も 停滞し

能力・体力 低下する

日々の生活 あらためにや

早く老化がやってくる

日中眠気をなくすには

朝日を浴びて 散歩して

動いて陽気を 巡らせて

朝ごはんにて気の補充

夕方夜には目と頭

極力使わぬ様にすりや

昼間に眠気はやってこず



「生き方五行 木性」

木性 草木や植物を

喻えた 働き活動で

草木の種は水吸って

根っこを伸ばして発芽して

天に向かって枝葉を広げる

成長・発達 あらわすなり

木々は燃えれば 火をおこし

小枝はすぐに火が着いて

燃え尽きるのも早いけど

大薪おおきき 直ぐには火がつかず

じっくり燃やして 火が着けば

後は自おのずと燃え続ける

木性の生き方 動くこと

生命や意識の方向で

動いて行動・言葉にし

自分の能力・表現力を

身につけ 成長して行つて

生命いのちの火を燃やすなり

木々が成長する様に

地道に基礎を身につけて

根っこを深く伸ばしていけば

能力の幹は太くなり

枝葉も強く広がって

台風来ても びくともせず

大きな薪を燃やす様に

地道に動いて 火を焼やべて

生命を燃やして いくならば

自ずと燃える時が来て

明るく輝き 光を放ち

未来を照らして 先見える

根の無い花を 咲かせたり

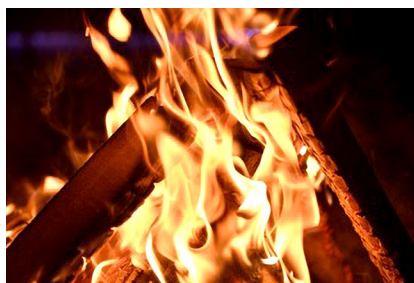
小枝を燃やす 生き方じゃ

生命いのちの働き 能力は

かよわく 短命 続きはせぬ

地道に根を張り 火を焼べりや

暗い時代の光となる



臺上獨酌

横山精真

台上だいじょうに独り酌ひとくんで偶作たまたまつくる

露台ろだいに独り酌ひとくめば君きみを想おもうこと多おほし

首こうべを回めぐらして空むなしく望のぞむ雲片うんぺんの過すぐるを

龍化りゅうかして靈魂れいこん月つきに遊あそぶ有あらば

珍羞ちんしゅう緑酒りよくしゅ嫦娥じやうがに對たいせん

臺上獨酌偶作 令和七年七月二十六日

露臺獨酌想君多 回首空望雲片過
龍化靈魂有遊月 珍羞緑酒對嫦娥

（語釈）○露台：テラス。○君：石原画鵬先生。七月五日に急逝す。○雲片：ちぎれ雲。

○龍化：優れた人物、豪傑が死ぬこと。彼は石原興業を立ち上げ三〇代にして現在の基盤を造り上げた。ご子息が社長業を立派に引き継いでいる。奥様、ご令嬢を見ても立派なご家庭だ。○珍羞：ごちそう。○緑酒：上質の酒。○嫦娥：月に住む美人、仙女。

（通釈）テラスで独り酒を飲むが君のことを想えてならない。空を見上げては雲が流れて行くのを空しく眺めるばかりだ。

豪勇の君であるから魂が月に遊ぶことがあつたら、君は早速ごちそうや上等の酒を並べて、伝え聞くあの美人に向かい合っていることだろう。

よくお付き合いさせて戴いた友が亡くなった。寂しい。一日に何度か彼を思っている。

公的又個人的に月に一―三回は一緒に飲んだろう。コロナの時は「夜の町はご遠慮下さい」に敢えて抵抗、殊更に三年間毎月必ず何処かの店を探した。六月九日は新羽の人達とプリンスホテルで和食を囲んだ。是が最後となった。十六日「ちよつと長くなるかも」と入院。七月五日出かける時、奥様から電話があつた。「入院中もあんなにお電話で話も出来ていたのに急変した」と。その日、本部の研修だったが、始まりに「生ある者はご縁を大事に吟じよう」と挨拶し始めた。後で知るが、丁度其の時に亡くなったようだ。終わって死に顔に会いに行つた。

お付き合いが始まって、家内も奥様を同じ女性として主婦として知る処となり、一回りも二回りも大きい器に敬服したようだし、娘さんを知つては今時あんな女性はいないと盛んに賛辞を贈る、是には私も全く同感している。ご子息は立派に会社を引き継いで居られるし、仕事を成功させ、こんなご家庭を作つた石原先生だからと、彼と飲む時はうるさい上さんも一切口やかましいことは云わないどころか、ちよつと間が開くと石原先生とご一緒しないのと言う始末だった。お陰で男同士の付き合いをさせて戴いたと思つている。昔彼が外郭団体を辞めると耳にした時の事だ。彼に電話をしたのである「やめるつて聞いたけど」「ああ！」「止めないでよ！」「何で？」「淋しいじゃない！」「解つた！」まだお互いを何も知らない時であつた。お役でもないのによくあんな電話をしたもんだなとつくづく思う。正解だったが、それにしてもこんなお付き合いになるなんて……！

月を見て思う仲にぞあつたとは

The mural was first covered up and then scrubbed by authorities, quickly revealing the fullness of Banksy's creative genius. While details of the initial art vanished under the official response, what remained was the indelible taint of Banksy's original critique: the government's efforts to single out, in the middle of a genocide, Palestine Action, in spite of its peaceful activism.



Scrubbed on September 10.

Source: <https://www.bbc.com/news/articles/cgrq0r0y878o>

The subsequent police investigation may be targeting the artist's identity, which has remained a secret since the 1990s.

時の輪廻

「もしグラフィティに本当に力があるなら、違法になっているはずだ」バンクシー

***Moco 現代美術館 (アムステルダム)**

バンクシーが9月、また新たな壁画を発表した。夜のうちに現れたその絵は、パレスチナ人へのジェノサイドによって露わになった、道徳と法の崩壊を描いていた。病院や学校の爆撃、オリーブの木の破壊、子どもや高齢者の死。それらはイスラエルによって行われたが、西側諸国の支援なくしては不可能だった。

英国は2025年、イスラエルの武器産業に反対する団体「パレスチナ・アクション」をテロ組織に指定し、弾圧の構えを見せた。これに対し、表現や集会の自由を守ろうと多くの市民が逮捕覚悟で抗議に立ち上がった。

バンクシーの新作は、900人近くの逮捕者が出た直後、ロンドンの裁判所の壁に現れた。

タイトルは「ロイヤル・コート・オブ・ジャスティス、ロンドン」。9月8日、彼のInstagramで本人の作品と確認された。

壁画はすぐに当局により覆われ、やがて消された。だがその行為こそが、バンクシーの批判を可視化した——ジェノサイドのさなかに平和的な活動家だけを狙い撃ちする政府の姿勢である。

当局の対応は、作品そのものの以上に、バンクシーの意図を浮かび上がらせることになった。

そして今、警察の捜査は、正体不明のアーティスト本人に及ぶ可能性もある。

Circles of Time

Atiya Hussain

If graffiti changed anything – it would be illegal*

Banksy

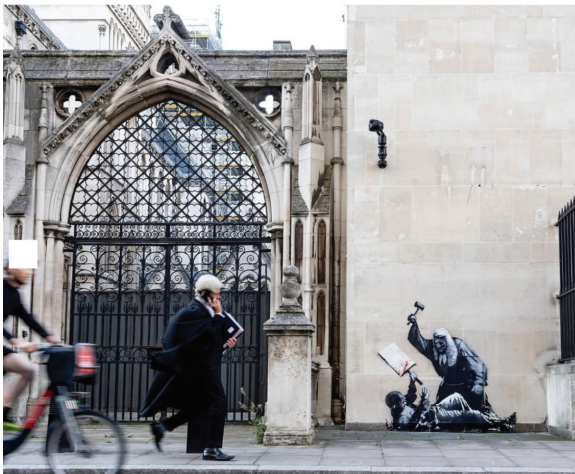
*Moco Museum of contemporary art, Amsterdam

In September, the street artist known as Banksy once again produced a compelling mural. The art, appearing overnight, illustrated the crisis of morality and legality that has been unleashed by the genocide of Palestinians. Uncounted deaths of old and young, women and children; the bombing of kindergartens, schools and universities; the systematic dismantling of hospitals; and uprooting of thousands of olive trees over the past two years have all been carried out by Israel, but would not have been possible without the active assistance of the industrialised ‘western’ nations of our world.

As if to remind us of its historic colonial role in sowing the seeds of this crisis, Britain has taken the notable policy position of banning Palestine Action, an organisation mobilising direct action against Israel’s arms trade in Britain.

In June 2025 Palestine Action sprayed Royal Air Force planes with red paint, and authorities responded by proscribing the group under the U.K.’s Terrorism Act. The public pushback against the proscription’s chilling effect on freedoms of speech and assembly was almost immediate. Claiming to oppose genocide and support Palestine Action, hundreds of people courted arrest in the United Kingdom.

Banksy’s latest artwork appeared on a court building in Westminster just days after almost 900 people were arrested for demonstrating in support of Palestine Action.



On September 8, 2025, Banksy’s Instagram account confirmed as the artist’s work the restrained but hard-hitting mural titled ‘Royal Courts of Justice, London’.

編集室だより【二〇二五年十一月】

今泉由利

歌集「地球にて」

土手を焼く煙は車の窓に来るブラジルの草の香る香るよ

私にはいま何事もなければ日付変更線を越えているなり

朴の木の裏葉の光る日日本へ帰り来たりぬ朴の花香る

七階の窓より見ている台湾の景色おぼろに梅の雨降る

けぶりたつ激しき雨に着きしより降り止まぬかな梅雨の台北

初めて食む果実の名前を問う我に蓮霧と書きたり台湾の人は

お互に理解出来ざる会話には車を停めて漢字を書きぬ

定家葛の小さき一花拾いたり姫の櫛塚を覆いて咲けば

思ひ出に出逢い出逢いて歩みおり父母といふ父母の庭

吹きし人の丸き頬つべを伝へつつ江戸吹き硝子の風鈴は鳴る

地平線は雲かとおぼろ中国の大陸上空をしばらく飛びぬ

中国の大地に我れのジェット機の影の映りてもうすぐ北京

雲の間よりうねる黄土色の見下ろしぬ中国の大河黄河を見たり

まだ若き玉蜀黍の穂をなびかせて着陸します中国北京

真直ぐに真直ぐにポプラの並木ゆき北京の町の人に出逢いぬ

自転車をつらぬゆく人々を横切りてわれは天安門の紅殻の色

つらなれる万里の石垣割りて咲く花はやさしきナデシコに似て

石積みて厚き壁長く造る国人々も棲む石積み積みて

曲りゆきてまだ槐の並木道槐に沿いゆく北京の町を

合歓の木の花咲く下に人を待つしばらくにして中国の言葉

古き物壊せば新しくなるものと元紅衛兵のガイドは言いぬ

ふみ歩む二歩一歩に思ひおり人はみな死にす万里の長城

双瘤駱駝に乗れる束の間につたいくる哺乳類なる体温哀し

散りいそぐ花見ることく今日のわれは車走らせて北京を見たり

パラグワイの鬼蓮の花咲き始むマルガリータは由野を育てし
アルゼンチンより私の電話の呼び出しに応えず答へざる日本の我が家
わが身体にタンゴのリズム残りいてタンゴに歩む石畳道

朝靄が木々の根元を隠す時エセイサ空港への道をゆきたり

ブラジルへ向けて飛び立つ滑走路二花三花タンポポの咲く

赤土の色を溶かせるラプラタ河巻積雲の影を映せり

十二時間の時差ある国と四時間の時差の国とに電話をしたり

赤道を越ゆる時刻は闇の中何も見えずに何か探しき

今度住むと決めたるアメリカの我庭にパームツリーの高々と立つ

毎日の景色となるか緑の木々少なき砂漠の名残の山々

夏の国より冬の国へと巡り来て帰り着きたり夏終る日本

養老の山並おぼろに見えていて癌ではないというが聞えぬ

名古屋城見ゆる窓辺のしばらくに新しき人とわれは出逢いぬ

瀬戸物の瀬戸に來りぬ陶土色の流れゆく川瀬戸川に沿う

瀬戸の山は少しづつ器になりゆくか私は湯呑を一つ買いたり

帰らむとする時香う白粉花に祖母を思うわが母を思う

運転を習いつつ回り廻る白詰草の花咲くあたり

エノコロの穂をゆらしゆく私の車はようやく則を越えない

日本の葱畑の畝ととのいて思い出のまた重なりてゆく

長き間使わぬままの品々も箱に詰めおりまたまた引越し

もう少し規律あればと荷造りす本のサイズはあまりにまちまち

ゆりの木の少し色づく並木道アメリカ領事館へわがゆかむ道

広くなりし部屋に御苑の木々の影揺れゆれている発ち去る時に

日本にて共に暮らしし我が品々いま太平洋に浮かびている頃

友ありて友の蒲団のぬくぬくと心なごみて五夜経にけり

桑の葉の黄色に変わる時にして桑畑続く桐生に近づく

「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所 〒一五〇・〇〇一三

東京都渋谷区恵比寿三・四五・三

フオーレストヒルズ三〇二

ケイタイ 090・8434・8646

TEL 03・6765・5838

◇URL <http://imaizumiyuri.jp/>

E-mail imayurizm@gmail.com

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇どなたも参加、投稿いただけます。

三河アララギ編集室 今泉由利 までご相談ください。

◇原稿は毎月末日までに、発行所まで郵送、メール、お届け下さい。

◇会費制は廃止。

◇昭和七年、三河地域のアララギ歌人が集い、創立歌会が開かれ、御津磯夫主宰「三河アララギ」誕生。

◇令和七年現在まで一号の欠刊なく、続いてきました、続いてゆきます。

◇編集・発行 今泉由利